

# フィルハーモニー・ウィーン・名古屋 第19回 演奏会

## ～ベートーヴェン・ツィクルスⅥ 最終章～

当団は2011年に創設。独特の外観や構造、そして音色を持つ(しかし演奏至難な)ウィーン・スタイルの楽器～玉葱型ネックが特徴のウィンナ・オーボエ、ボーゲンとウィンナ・ヴァルヴといった独特の構造のウィンナ・ホルン、山羊皮ヘッドで手回しチューニングのウィンナ・ティンパニ、古楽器の運指を残すウィーン・アカデミー式クラリネットなど～を揃え、我々が敬愛し、世界最高峰ともされるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の響きを追求しているオーケストラです。

2017年に開始したベートーヴェン・ツィクルスがいよいよ完結します。掉尾を飾るのはもちろん「第九」。第九の前身ともされる異色作「合唱幻想曲」とあわせお送りします。コロナ等により順延すること2年半、5回の演奏会を挟んだ満を持しての大団円を、指揮者茂木大輔氏と活躍著しい独唱・独奏陣、さらには名古屋の老舗合唱団、そしてご来場くださる満員のお客様と共に迎えたい、と切に願っています。



### ◆ 指揮 ◆ 茂木 大輔 Daisuke Mogi

ミュンヘン国立音楽大学大学院修了(オーボエ専攻)、1986年からシュトゥットガルト・フィルの第1オーボエ奏者を経て、1990年から30年にわたりNHK交響楽団首席オーボエ奏者を務め、2018年、その功績によりN響より「有馬賞」受賞。N響在団中の2009年より、4年間にわたって東京音楽大学および大学院にて指揮を学ぶ。指揮を広く上り、故岩城宏之、および外山雄三の各氏に師事。2019年3月にN響を定年退職するとともに、専業の指揮者としての活動を開始した。オーケストラの楽器やバッハの教会音楽、ベートーヴェンのシンフォニーなどの解説コンサートで全国的に活躍。二ノ宮千子の「だめカンタービレ」原作に取材協力、自ら企画・指揮する「生で聴く“だめカンタービレ”の音楽会」を全国展開し、100回を超えて継続中。現在までに仙台フィル、アンサンブル金沢、東京フィル、京都市響、日本センチュリー響、兵庫PAC、広島響、九州響、琉球響など多数の団体を指揮している。現在東京音楽大学指揮科助教。執筆でも知られ、「交響録・N響で出会った名指揮者たち」(音楽之友社)など多数の著書がある。

### 川島 幸子(ソプラノ)

Sachiko Kawashima (Soprano)

東京音楽大学ピアノ科卒業後、ワイマール音楽大学大学院声楽科修了、ドイツ国家演奏家資格取得。第12回チャイコフスキー国際コンクール声楽部門セミファイナリスト、第10回R.ザンドナイ国際オペラコンクールR.ザンドナイ賞。オペラでは「魔笛」夜の女王、「後宮からの誘拐」コンスタンツェ、「ナクソス島のアリアドネ」ツェルビネッタ等、ソリストとしてオーケストラとの共演も多く、メディアではBSプレミアム「クラシック倶楽部」、NHK-FM「ベストオブクラシック」に出演。'12年に『R.シュトラウス&ドヴォルジャーク歌曲集』をリリース。愛知県立芸術大学准教授。



### 三輪 陽子(メゾ・ソプラノ)

Yoko Miwa (Mezzo-Soprano)

愛知県立芸術大学音楽部声楽専攻卒業、同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成20年度新進芸術家海外派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演、同劇場の鑑賞教室に出演。モーツァルト、バッハ、ヴェルディなど数々の宗教曲のアルトソロを担当するほか、ベートーヴェン「交響曲第9番」やマラー「嘆きの歌」、「復活」、「大地の歌」、「亡き子を偲ぶ歌」などのソリストとして活躍している。クアアチア、ウィーン、プラハ等の海外公演にも出演。二期会会員。



### 大久保 亮(テノール)

Ryo Okubo (Tenor)

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院大学院首席修了。愛知祝祭管の楽劇「神々の黄昏」ゾークフリート役、名古屋二期会創立50周年「魔笛」タミーノ役など数々のオペラに出演。また、バッハ「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」、「クリスマス・オラトリオ」エヴァンゲリストのほか、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「交響曲第9番」、メンデルスゾーン「エリヤ」などにテノールソロで出演。リサイタルも定期的に開催し、シューベルト「美しい水車小屋の娘」、「冬の旅」、「白鳥の歌」を演奏している。



### 伊藤 貴之(バス)

Takayuki Ito (Bass)

名古屋芸術大学首席卒業。同大学院修了。奨学金を得て渡伊シラノで研鑽する。第39回イタリア声楽コンクール金賞など受賞歴多数。近年は新国立劇場開場25周年記念公演「アイダ」国王、日生劇場「メデア」クレオンテ、「セビリアの理髪師」バジリオ、藤原歌劇団公演「トスカ」アンジェロロッチ役等で出演し、いずれも好評を博す。小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、チョン・ミンファン、アルベルト・ゼッダ等著名な指揮者との共演も多く、その他に、ベートーヴェン「交響曲第9番」やヴェルディ「レクイエム」などのソリストとしても活躍している。平成24年度愛知県芸術文化選奨「文化新人賞」を受賞。藤原歌劇団団員。



### 名古屋市民コーラス

Nagoya Shimin Chorus

1959年発足、本年で創立64年となる合唱団。常任指揮者山本高栄先生のもとオーケストラ伴奏の大合唱曲に取り組んでいる。団員数は約170名で、幅広い年齢層と多様なキャリアを有する合唱愛好家が集い、自主的な団運営を行っている。今年9月には第50回定期演奏会でJ.S.バッハの「ミサ曲 口短調」を演奏するなど定期開催の演奏会を軸とし、愛知県合唱連盟の一員として愛知県合唱祭や名フィル主催の「第九」公演などにも参加している。



### 児玉 真子(ピアノ)

Mako Kodama (Klavier)

岐阜県各務原市生まれ。名古屋市立菊里高等学校、愛知県立芸術大学卒業。2020年ドレスデン音楽大学ピアノ科修士課程修了と同時にライプツィヒ演劇音楽大学にてフォルテピアノを始める。2021年にハーグ王立音楽院に交換留学し、Bart van OortとPetra Somlaiの名氏のもとで更なる研鑽を積んでいる。これまでにピアノを井深阿佐子、國井真美、上野栄美子、小坂圭太、北住淳、Pia Kaiser、フォルテピアノをEckhart Kuperの名氏に師事。2017年から毎年岐阜・名古屋でリサイタルを開催し、ライプツィヒでのリサイタルやドレスデン・フィル弦楽トリオとの共演も行った。



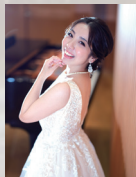
### 坂倉 歌奈子(ソプラノ)

Kanako Itakura (Soprano)



### 舟倉 悠利(ソプラノ)

Yuri Funakura (Soprano)



### 田中 祐衣(アルト)

Yui Tanaka (Alto)



### 笠木 厚憲(テノール)

Atsunori Kasagi (Tenor)



### 岩田 健豊(テノール)

Kento Iwada (Tenor)



### 大倉 一将(バス)

Kazumasa Okura (Bass)

